

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立相川中学校

校長名 田口 明生

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

学校教育目標

学校経営の方針

自立・共生・工夫  
～社会で自分らしさを生かすことができる生徒の育成～

- 自分を受け入れ、自分らしさを追求しようとする生徒
- 生徒一人一人に寄り添い、個に応じて指導・支援する教職員
- 多様な考えを認め、ともに成長しようとする生徒
- 人権意識を高め、切磋琢磨しながらチームとして指導に関わる教職員
- お互いのよさを活用し、課題解決に取り組む生徒
- 自ら学び続け、自己の取組を振り返り、課題を解決しようとする教職員

今年度の重点目標

○一人一人が自信をつける(達成感を味わう)学びの場づくり ○生徒による学校づくり ○地域と協働して作り上げる学校づくり

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
<p>一人一人が自信をつける(達成感を味わう)学びの場づくり</p> <p>・「できた」「わかった」と喜びを感じることができる授業を展開する。</p> <p>・自分の居場所が実感でき、役に立っていると感じることができる学級経営を行う。</p> <p>・達成感・充実感を味わうことができる学校行事を生徒主体で行う。</p> <p>・校内教育支援センター機能を活用し、生徒に寄り添った支援を行う。</p>	<p>1・2</p>	<p>・各教科の年間計画に基づいた指導を行い、学力向上プロジェクトシートを活用し指導の工夫を行った。また、数学科・英語科において、チームティーチングの授業を実施した。</p> <p>・学カステップアップ支援員等による授業支援を実施した。</p> <p>・学級力アンケートを実施し、クラスの現状を把握し、次学期の改善策を講じて、生徒への意識を高める。</p> <p>・教育相談コーディネーターを中心に、適切に校内教育支援センターを活用し、生徒の教室復帰につなげる。</p>	<p>・数学・英語に関しては、習熟度の差が大きく、複数の教員による教科指導は効果的であり、学力不振を原因とする不登校生徒への対応という意味でも有効であると考える。</p> <p>・授業内でのペアやグループ学習を積極的に取り入れることで、他者の意見を取り入れながら個々の思考力・判断力・表現力を高めることができた。</p> <p>・生徒が学級の現状を客観的に把握し、課題意識を高く持ち、自分たちのクラスを自分たちでよくしていきたいという意識が高まった。</p> <p>・個別支援・指導により、定期的に登校できるようになった生徒が徐々に増えてきて、教室復帰ができる生徒も出てきた。</p>	<p>・これまでの数学・英語における少人数指導やチームティーチングは一定の成果をあげることができた。生徒は、理解できないことをすぐに質問することができ、安心して授業を受けることができている。次年度も効果的な指導を進めていきたい。</p> <p>・個に応じた指導を続けることが、不登校の未然防止にもつながっていることから、今後も支援員等の効果的な活用を行う。また、次年度は校内教育支援センターをより充実できる機会をいただいたこともあり、校内全体での取組につなげるよう準備を進める。</p>
<p>生徒による学校づくり</p> <p>・学年ごとの段階的な集団づくりに取り組む。</p> <p>・人権感覚を磨く指導を徹底する。</p> <p>・生徒を支援する立場として、いつ、どこで、誰を、どのように活躍させるか、生徒集団育成の明確なビジョンをもって取り組む。</p>	<p>1・2・3</p>	<p>・生徒会活動を中心に、各委員会で考案した人権に係る呼びかけや掲示物の作成等の活動を行った。</p> <p>・教育相談前にアンケートを実施し、相談活動を充実させるとともに、個に応じた指導を充実させた。</p> <p>生徒指導・支援部会を毎週定期的にも実施して、情報を共有するとともにスクールカウンセラーや関係機関と連携し、生徒指導・支援の充実を図った。</p>	<p>・生徒会活動を中心に、各委員会で考案した人権に係る呼びかけや掲示物の作成等の活動を行った。生徒の人権感覚は徐々に高まり、活動の中においても、周囲の生徒を思いやる行動が多く見られるようになった。</p> <p>・学期はじめの教育相談では、担任は全員の生徒と面談を行い、様々な状況の把握に努めた。緊急を要する内容については、生徒指導担当を中心に解決に向かえる体制づくりができています。</p> <p>・毎週の情報交換により、学校生活に困難を抱える生徒の現状の共有ができ、スクールカウンセラーからのアドバイスを受けながら、学校全体の問題として指導に当たることができた。</p>	<p>・これまで育まれてきた人権感覚をもとに、より高い人権感覚を磨くことができるような指導を継続する。</p> <p>・定期的な教育相談を継続しながら、チャンスをつかえた相談活動も効果的にできるよう、全教職員で生徒を見守る体制をつくる。</p> <p>・スクールカウンセラーや厚木市教育委員会・福祉関係機関等との連携を強化し、生徒個々が抱える課題について、様々な角度から支援をしていく。</p>

<p>地域と協働して作り上げる学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方が学校の中で生徒とともに活動する場を設け、地域と生徒の顔が見える関係づくりに取り組む。</li> <li>・地域行事に生徒が参加し、地域の一員として活動できるよう取り組む。</li> </ul>	<p>2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を開催し、学校行事への協力や地域行事への参加について協議を行った。また、厚木市防災訓練や厚木市年末清掃への参加協力を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃や公民館行事等では、参加生徒の成長とともに、地域からの感謝の声が寄せられるなど、子どもたちを地域全体で育てていく意識が高まった。</li> <li>・4月に行った地区別集会、集団下校訓練へ地域の方の参加を呼び掛けたところ、平日にも関わらず約15名の参加があり、生徒と地域の方との関係を作るきっかけになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働活動をさらに活用し、地域の方が学校の教育活動に参加することから相互理解を深め、地域や生徒の実態に合った取組ができるよう工夫し、地域全体で子どもと関わっていく風土を大切にしたい。</li> </ul>
--	------------	--	--	---

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

・これまで行うことができなかった地域と学校の連携する活動が徐々に再開することができるようになってきた。地域と学校がお互いに支え合う関係ができることは今後も発展させていきたい。そのための条件整備を進めていきたい。

・体育大会や文化発表会で生徒の活躍する姿を見られることはとても有意義だと感じる。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

・生徒たちは、日常の学校生活に落ち着いて取り組み、学習活動や学校行事に主体的に参加する姿が多く見られた。また、互いの良さを認め合い、協力しながら活動する姿も随所に見られ、こうした姿は本校の文化として着実に根付きつつある。令和7年度は、「生徒に主体性と当事者意識を育む教育活動」を重点に取り組んできた。その成果は、学習活動や生徒会活動、学校行事などの随所に表れ、生徒が「自分たちの学校を自分たちでつくる」という意識をもち始めている。令和8年度は、この芽をさらに育て、学校全体へと広げていきたいと考えている。生徒一人ひとりが、自分の存在が学校をより良くする力になると実感できる学校。互いの違いを否定するのではなく、尊重し合い、その違いを価値として生かす学校。そして、失敗を恐れずに挑戦できる、温かく力強い学校。その実現に向け準備を進める。